

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和 元 年 7 月 5 日

評価対象事業		評価者	文化人権課担当課長 藤田 聡一郎	
共創-22	重点事業	鎌倉芸術館管理運営事業	自治事務	主管課 文化人権課
	まち・ひと・しごと		法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を発揮できるよう指定管理者制度を導入し、施設の管理運営を行うとともに、施設・設備の修繕実施により予防保全を図るため。
効果	指定管理者制度導入により施設の利用貸し出し、鑑賞機会の提供や施設の維持管理など鎌倉芸術館の一体的管理に基づく効率的な運営を図り、予防保全により施設・設備の良好な維持を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

・施設の管理運営業務を指定管理者へ委託するほか、鎌倉芸術館用地の賃借などの業務を行った。 ・鎌倉芸術館の大ホール特定天井改修修繕等を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算	30年度(2018年度)決算	データ区分	01年度(2019年度)当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	176,466人	人 口	176,436人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	81,150世帯	世 帯 数	82,444世帯	
	事業の対象者数		事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	1,640,308	当初予算(千円)	556,682	
	国県支出金	12,567	国県支出金	6,474	
	地方債	950,100	地方債	197,500	
	その他	3,170	その他	3,140	
	一般財源	674,471	一般財源	349,568	
	人員配置数	2.8	人員配置数	2.8	
事業経費運営	人件費(千円)	21,154	人件費(千円)	21,879	
	総事業費(千円)	1,661,462	総事業費(千円)	578,561	
	市民1人当りの経費(円)	9,415	市民1人当りの経費(円)	3,279	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
公 平 性	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	-1. 今後、市民等との協働による事業実施に向けた検討が必要である
	協働未実施	協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直し類の	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	見直し類の	事業へ統合

予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	平成28年度に公募した指定管理者の業務仕様書等による業務を平成33年度まで実施し、芸術文化の振興を図る。

総評(評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、指定管理料、維持修繕費、負担金等の削減の可能性があるため、「事業費の削減余地」は「ある」とした。妥当性については、鎌倉の芸術文化発信拠点として、例年50万人以上の利用者があるなど市民ニーズが認められることから、「廃止・休止による影響は大きくある」とした。協働については、鎌倉の芸術文化の発信拠点として市民ニーズを捉えながら持続的且つ適切な運営を図るため、市民とどのような協働方法があるか等を検討していく必要がある。
-------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題 (前年度未解決の事項を含む)	・PFI事業に代わる手法として大規模修繕を進める必要がある。 ・利用頻度の高い備品について、市が修繕、購入等を行う必要がある。 ・指定管理業務における評価方法として、外部の委員等による評価について検討する必要がある。
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	・大ホール特定天井改修修繕等を実施した。 ・利用頻度の高い備品について、修繕、購入等を実施した。 ・外部評価方法について、他市の事例などを参考に検討した。 ☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・平成30年度(2018年度)から平成31年度(2019年度)にかけて、大ホール特定天井修繕を実施している。平成31年(2019年)3月から12月までの利用休止期間を考慮しながら、施工状況の確認等を行う必要がある。 ・適切な外部評価方法が見出せていない。

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	施設利用率								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市			
他市実績	目標85%								
	83.0%	74.9%	92.1%	休館中	78.8%	87.5%			

比較事項	利用者年間数								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市			
他市実績	目標500,000人								
	489,133人	344,967人	240,547人	休館中	131,803人	216,757人			

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

事業実施に係る指標

指標の内容	施設利用率						単位	%	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				平成29年1～9月は大規模修繕のため休館 平成31年(2019年)3月～令和元年(2019年)12月は修繕のため大ホールのみ利用休止
鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を充分に発揮できるようにするため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0				
	実績値	90.5	88.0	88.6	86.1	83.0					
	達成率	106.5%	103.5%	104.2%	101.3%	97.6%					

指標の内容	年間利用者数						単位	人	指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				平成29年1～9月は大規模修繕のため休館 平成31年(2019年)3月～令和元年(2019年)12月は修繕のため大ホールのみ利用休止
鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を充分に発揮できるようにするため。	目標値	600,000.0	500,000.0	500,000.0	250,000.0	500,000.0	312,500.0				
	実績値	520,406.0	530,776.0	415,357.0	279,992.0	489,133.0					
	達成率	86.7%	106.2%	83.1%	112.0%	97.8%					

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	年間利用者数は例年50万人を超えており、利用者の多い施設と言える。平成30年度についても、ほぼ例年通りの利用者数となっている。平成29年度については、6か月間の休館を考慮し、目標値を例年の半数とした。令和元年度(2019年度)については、9か月間の大ホールの利用休止を考慮し、利用休止期間中の目標値を例年の半数とした。
-----------------------	---